



梅田だより

茅ヶ崎市立梅田小学校 TEL85-1125

めざす児童像「やさしく かしこく たましく」

令和8年1月30日

2月号

NO. 636

校長 大久保仁晶



夢中に学ぶ子を目指して

梅田小のシンボルとも言える紅梅の花が咲き出しました。北海道や日本海側では大雪が報道されています。学校でもくじら池が凍る日もあり、茅ヶ崎でも寒い日が続いています。その影響か、インフルエンザ等による学級閉鎖が多くなっています。11月も流行しましたが、今回はインフルエンザB型が中心です。特に週明けの月曜日に欠席者が一気に増加している傾向です。栄養、休養を十分にとって、体調管理にはお気をつけください。また、発熱や咳等の症状が見られるときは、無理をせず大事を取るなど、家庭での健康観察をよろしくお願ひします。

さて、梅田小学校では、「夢中に学ぶ子を目指して～つなぐ・つなげる・つながる～」を校内研究のテーマとして、授業研究を行っています。今回は4年生国語の「スワンレイクのほとりで」という授業の研究です。新しく教科書に採用された教材なので、授業の展開にいろいろな可能性をもっている教材とも言えます。当日の授業は4年4組で行われましたが、そこまでに他のクラスで事前に授業を行ったり、他の先生の行う授業を見て参考にしたりという過程を踏んでの当日となります。まさに、学年がチームとなって授業研究を行っています。それもすべて子どもたちの理解を深めるための研究となります。参観者にとっても貴重な学びの場となります。私は教師や子どもたちの発言をメモしながら授業を見学しています。教師の発問に対し、子どもがどのような反応を示すのか、またどんな記述をしているのかなど、授業の事実を記すことが大事と考えています。

そして、授業後には、子どもたちの授業中の様子をもとに参観者で協議会を行っています。多くの人が思いを発言できるよう4,5人の小グループで「ふり返り」を行っています。めあては達成できていたか、子どもたちが夢中になるためのしかけはどうだったのかなど、この協議会でいろいろ意見交換をすることで、よりよい授業の形が見えてきます。また、外部からの視点として、講師も招いています。茅ヶ崎市教育委員会の指導主事とともに、國學院大學教授の三田大樹先生から指導を受けています。多くの授業を見ている方の指導なので、よかった点とともに、具体的な課題も教えていただいている。そこで学んだことを、授業者はもちろん参観者も明日の授業に生かそうと考えています。

研究授業はやはり緊張感を伴うものです。しかし、多くの人に授業を公開することで、それだけ学びも返ってきます。学習指導要領で言われている「主体的・対話的で深い学び」、そして校内研究のテーマである「子どもたちが夢中に学ぶ姿」が多く見られるよう、これからも研修を深めてまいります。



高南駅伝、梅田小が2連覇。4チーム全員大活躍でした。



授業後の黒板です。見やすい板書も研究対象です。